



## 平成26年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 三光マーケティングフーズ  
コード番号 2762 URL <http://www.sankofoods.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平林 隆広

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役執行役員経営管理本部長 (氏名) 長澤 成博

TEL 03-5985-5711

四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年6月期第1四半期の業績(平成25年7月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第1四半期	5,129	△17.2	△576	—	△571	—	△527	—
25年6月期第1四半期	6,192	0.5	39	△92.1	42	△92.2	5	△98.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第1四半期	△3,669.70	—
25年6月期第1四半期	40.37	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第1四半期	17,220	—	13,441	—	—	78.1
25年6月期	18,269	—	14,085	—	—	77.1

(参考) 自己資本 26年6月期第1四半期 13,441百万円 25年6月期 14,085百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	800.00	—	800.00	1,600.00
26年6月期	—	—	—	—	—
26年6月期(予想)	—	800.00	—	8.00	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

平成26年1月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割するとともに、単元株式数を100株とする単元株制度を採用する予定です。平成26年6月期(予想)の期末配当金については、株式分割を考慮した額を記載しております。なお、株式分割実施前に換算すると1株あたり800円に相当いたします。

### 3. 平成26年6月期の業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期(累計)	12,000	△8.2	100	△50.2	100	△58.2	△100	—	△6.95
通期	24,000	△6.7	400	—	400	—	20	—	1.39

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

1株当たり当期純利益については、平成26年1月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で株式分割を行う影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年6月期1Q	143,870 株	25年6月期	143,870 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

26年6月期1Q	— 株	25年6月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年6月期1Q	143,870 株	25年6月期1Q	143,870 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2) 平成26年1月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割するとともに、単元株式数を100株とする単元株制度を採用する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期(平成25年7月1日～平成25年9月30日)におけるわが国経済は、政府の経済対策・日銀による金融政策により景気回復傾向にある一方で、円安の影響による輸入物価の上昇や、米国、新興国経済の先行き等、依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、縮小する市場において同業他社はもちろんのこと、中食との競争がより一段と激しくなっております。また、「単なる価格の安さ」「ありきたりの商品」ではお客様の支持は得られず、期待を上回る商品やサービスの「質」、提供価値の独自性・差別性がお客様が店舗を選ぶ基準になってきております。

このような環境の中、当社は「創業の原点」に立ち返って市場の動向、お客様ニーズの変化を読み取り、従来の固定概念に縛られることなく、「新たな居酒屋業態の模索と開発」、「東方見聞録、月の雫、金の蔵Jr.等の既存業態の全面的見直しによる再ブランディング」、「東京チカラめし業態の確立に向けた整備・再編」に向けた取り組みに着手してまいりました。

#### (居酒屋業態)

居酒屋業態におきましては、新業態の開発に向けて、社内プロジェクトを設置し、きめ細やかな市場調査に基づき、社内で徹底した検証を行い、店内でジュースに焼き上げた骨付き鶏、鶏丸々1羽をじっくり焼き上げたロティサリーチキンと、石窯で焼き上げた本格ピザ、イタリア直輸入の樽生ワインを手軽に、落ち着いた空間で楽しんでいただく「バリバリ鶏」を開発し、9月に1号店をオープンし、10月以降、数店舗を既存業態から同業態に転換してまいります。また、朝獲れ鮮魚を活気溢れる店内で、手間暇と真心をこめて、素材、空間、サービスの質にこだわった新業態「東京魚河岸バル吉今」の開発にも着手しました。これにより、各エリアにおいて、客層・ニーズにあわせ、業態、店舗数を適正化させることで、高い効果が見込まれることから、今後の推移を見ながらさらなる展開を検討してまいります。

また、既存業態の全面的見直しによる再ブランディングにつきましては、宴会需要の高い年末商戦期に向けて、ゼロベースで「商品」の見直しを図るとともに、お客様視点に立って、「店内環境・設備」の整備・改修プランの策定に着手し、10月以降段階的に実施してまいります。また年末商戦に向けて、宴会獲得プランの推進等のプロモーション、店舗従業員への教育を継続して行ってまいります。

#### (東京チカラめし業態)

急速出店により拡大してきた東京チカラめし業態につきましては、中期的観点から、店舗の見直し、再編・整備に着手するとともに、原点に立ち返り、商品とサービスの品質向上、店舗のQSCレベル改善に取り組んでまいりました。

商品とサービスの品質向上においては、店舗毎のマーケット特性を再度把握し、その店舗に適するメニューラインナップへの見直しを行うとともに、店舗のQSCレベルの改善に向けて、店舗ごとの課題の洗い出しと改善策の実施を継続的に実施してまいりました。店舗戦略におきましては、中期的視点から既存店舗群の全面的見直しをすすめてまいりました。

これらの施策に全社一丸となって取り組んでまいりましたが、まだ実験、検証中であること、転換に向け動き出した段階であること、政策的に実施した店舗閉店により、売上高51億29百万円（前年同期比17.2%減）となりました。営業利益、経常利益につきましては、居酒屋業態の売上低下、東京チカラめしの主要食材である牛肉・米の調達価格がいまだ高騰しており、営業損失は5億76百万円（前年同期は営業利益39百万円）となりました。また経常損失は、5億71百万円（前年同期は経常利益42百万円）となりました。当四半期純損失は東京チカラめし業態の店舗戦略の見直しに向けて、減損損失を計上したこと等により、5億27百万円（前年同期は四半期純利益5百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における流動資産は、32億70百万円となり、前事業年度末に比べ、4億25百万円減少いたしました。これは主に、その他流動資産が減少したことによるものであります。固定資産は139億50百万円となり、前事業年度末に比べ、6億22百万円減少いたしました。これは主に、固定資産の償却によるものであります。この結果、総資産は172億20百万円となり、前事業年度末に比べ、10億48百万円減少いたしました。

当第1四半期会計期間末における流動負債は、22億84百万円となり、前事業年度末に比べ、3億83百万円減少いたしました。これは主に、買掛金の減少によるものであります。固定負債は、14億94百万円となり、前事業年度末に比べ、21百万円減少いたしました。これは主に、資産除去債務の減少によるものであります。この結果、負債の部は、37億79百万円となり、前事業年度末に比べ、4億4百万円減少いたしました。

当第1四半期会計期間末における純資産の部は、配当金の支払等により134億41百万円となり、前事業年度末に比べ、6億43百万円減少いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年6月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成25年8月9日に公表しました業績予想に変更ありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### (3) 追加情報

#### (役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、従来、役員退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程(内規)に基づく期末要支給額を「役員退職慰労引当金」として計上しておりましたが、役員退職慰労金制度廃止に伴い、平成25年9月25日開催の第37期定時株主総会において役員退職慰労金を打切り支給することが決議されました。

これに伴い、当第1四半期会計期間において「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打切り支給額の未払い分5億30百万円については「長期未払金」として表示しております。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,901	1,834
売掛金	252	118
原材料	53	46
前払費用	526	480
未収還付法人税等	241	231
繰延税金資産	115	418
その他	604	141
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	3,695	3,270
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,726	6,425
減価償却累計額	△3,225	△3,226
建物(純額)	3,501	3,198
工具、器具及び備品	2,121	2,089
減価償却累計額	△1,319	△1,358
工具、器具及び備品(純額)	802	731
土地	942	942
リース資産	781	743
減価償却累計額	△716	△711
リース資産(純額)	65	31
建設仮勘定	3	3
有形固定資産合計	5,314	4,907
無形固定資産	77	79
投資その他の資産		
投資有価証券	1,345	1,344
関係会社株式	253	253
差入保証金	6,590	6,368
繰延税金資産	412	413
投資不動産(純額)	292	292
その他	289	293
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	9,181	8,963
固定資産合計	14,573	13,950
資産合計	18,269	17,220

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,122	955
リース債務	78	38
未払金	268	222
未払費用	791	688
未払消費税等	36	65
前受収益	238	184
設備関係未払金	—	14
その他	131	115
流動負債合計	2,668	2,284
固定負債		
リース債務	6	2
退職給付引当金	119	109
役員退職慰労引当金	530	—
長期未払金	—	530
長期預り保証金	292	298
資産除去債務	566	554
固定負債合計	1,515	1,494
負債合計	4,184	3,779
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,390	2,390
資本剰余金	2,438	2,438
利益剰余金	9,255	8,612
株主資本合計	14,085	13,442
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
評価・換算差額等合計	△0	△0
純資産合計	14,085	13,442
負債純資産合計	18,269	17,220

(2) 四半期損益計算書  
第1四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
売上高	6,192	5,129
売上原価	1,702	1,468
売上総利益	4,489	3,660
販売費及び一般管理費	4,450	4,237
営業利益又は営業損失(△)	39	△576
営業外収益		
受取利息	0	0
受取賃貸料	5	5
投資有価証券評価益	—	0
貸倒引当金戻入額	0	0
雑収入	8	3
営業外収益合計	14	10
営業外費用		
支払利息	1	0
投資有価証券評価損	5	—
賃貸費用	2	2
為替差損	—	1
雑損失	1	0
営業外費用合計	11	5
経常利益又は経常損失(△)	42	△571
特別利益		
固定資産売却益	—	2
受取和解金	0	0
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産除却損	32	0
店舗閉鎖損失	—	32
減損損失	—	211
その他	1	17
特別損失合計	33	261
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	8	△830
法人税等	3	△302
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5	△527

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社においては、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。